

半導体漫遊記 ⑤

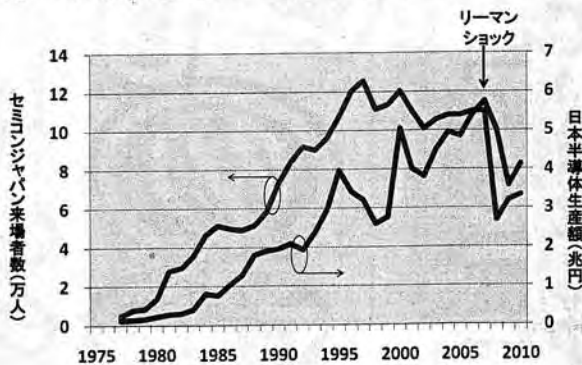
湯之上陸

セミコン・ジャパン 2010が、昨年12月1〜3日にかけて、幕張メッセにて開催された。セミコン・ジャパンでは、半導体製造装置、部品、材料など、1500社以上のメーカーが出展する。ここに、半導体関係者が、毎日数万人規模で来場する。

1976年にセミコン・ジャパンは始まった。筆者は90年から、ほぼ毎年参加している。文字通り「漫遊」するがごとく、ぶらりぶらりと出展ブースを見て回る。最初のころは、コンパニオンを眺めたり、景品をもらったり、メーカーの知り合いにお食事をご馳走

がする。しかし、活況というほどの盛り上がりは感じられなかった。

セミコン・ジャパンの「体感温度」は、日本半導体産業の好不況を表すバロメーターのようなモノかもしれない。これらの関係を定量的に表すことができないかと思ひ、セミコン・ジャパンの来場者数と日本半導体産業の生産額をグラフにしてみた。来場者数が「体感温度」を表現していると思つたからだ。すると、完全に傾向



セミコンジャパン来場者数と日本半導体生産額の推移
出所:SEMIジャパンおよびWSTS



セミコン・ジャパン2010の出展風景

への期待」について講演した。セミコン・ジャパンでの講演は、2000年、06年に続いて、3回目である。講演では、展示ブースを見て回る時よりも、もっとはっきり「温度」を感じる。00年は、日本半導体にまだ残っている「強気」を感じた。06年には、凋落しつつも「日本半導体を何とかしたい」という意気を感じた。しかし、今年の講演では、何も感じなかった。

セミコン・ジャパン体感温度

産業の好不況に相関

が合っているとは言えない。例えば、95〜96年谷。特に、09年の来場者数(体感温度)と、日産半導体産業の好不況

多い。例えば、95〜96年谷。特に、09年の来場者数(体感温度)と、日産半導体産業の好不況

000年の山と02年のみは、怖いほど一致し

本半導体産業の好不況

者数(体感温度)と、日産半導体産業の好不況

で、1日本の半導体製造(半導体技術者・社会学者)

(生産額)には、何らかの相関があるのだから、長いトンネルに入っているような気がする。トンネルを抜ける兆しがあるか、あるいはトンネルを抜けたことができたか、12月が来るたびに、筆者は「体感温度」を測定している。

1976年にセミコン・ジャパンは始まった。筆者は90年から、ほぼ毎年参加している。文字通り「漫遊」するがごとく、ぶらりぶらりと出展ブースを見て回る。最初のころは、コンパニオンを眺めたり、景品をもらったり、メーカーの知り合いにお食事をご馳走